

南流山中学校の移転話がいつの間にか…

「私立」中学校へ貸出？13億円余の肩代わり？

コロナ禍でも、不十分な感染症対策の一方、南流山中学校の移転話は、私立中学（暁星国際学園）への貸付、優先利用にいつの間にかすり替わって…

南流山中学校移転事業 総事業費57億円

市の方針に振り回される児童生徒・保護者・住民

「小中学校が近くにあるから、引っ越し先を決めたのに…」こんなつぶやきがネットに書き込まれています。児童生徒の急増に伴う学校の新設・増設は、おおたかの森地区に限った話ではありません。今度は、南流山地区でも同様の事態に。

小中学校の適正配置・適正規模計画を流山市が策定していないからです。

南流山地区では、南流山小学校の児童急増に伴い、新設小学校の建設を計画。全国初、防災調整池（豪雨時などの際、一時的に地域の雨水を集めて、計画的に河川へ流すため池のようなもの）の上に学校を建設する方針を、市が決定しました。

令和元年度、その事前調査に1千7百万円を投入。しか



し、工期が間に合わないとし、断念。今度は、南流山中学校を新設校へ鞍替えさせ、南流山中学校全体を東洋学園大学旧校舎跡地（宮園）に移転へ変更されました。1・5坪の大移動です。

完済まで24年

市の方針に振り回される生徒・保護者の一方で、昨年10月6日市長が、東洋学園大学の一部を私立中学（暁星国際学園（木更津市））へ貸付にに向けた協議入りを表明。その後、話がすり替わっていきま

す。3月議会に審査した議案は、私立中学への貸付る土地・建物の一部を6億8千万円で購入するというもの。さらに小田桐市議の質疑に、「貸付場所は、費用総額13億4千万円。年間貸付収入を5800万円と見込み、24年間で換算する」と答弁。これでは、私立中学の経費を市が肩代わりしたこととなり、今、本当に必要なことなのか大きく問われています。

移転後の南流山中学校

自転車通学1.5キロ

屋根付きプールを整備し、授業確保を提案

日本 共産党



日本共産党流山市議員

小田 桐たかし

なぜ、私立中学校のために市が肩代わりするのでしょうか。なぜ、「貸付」となったのでしょうか？市立中学と私立中学が隣接することに伴う様々な課題をしっかりと検証しているのでしょうか？

市長が「貸付」申出を丸のみする一方で…

予算委員会では、「生徒・保護者に責任はない。市の責任」と市長が答弁しました。そうであれば、生徒のよりよい教育環境を実現するため、あらゆる取り組みが市に求められます。

自転車通学の希望続出も…

南流山中学校の移転に伴い、自転車通学を望む要望が続出自転車通学を保障する自転車駐輪場が十分確保されていません。

しかし南流山中学校は、移転後、プール施設はなく、将来的な生徒数の大幅増加に対応した校舎増築も、十分な校庭確保もできなくなっています。

しかし市長は、学園側からの申出を丸のみ。売買交渉もせず、「貸付」に固執し、南流山中学校の教育整備は二の次です。

教育関係者、保護者が集い、検証を

なぜ、南流山中学校の教育環境が優先されないのか：南流山中学校使用部分の決定（11月5日）前に、私立中学への貸付協議を市長が表明（10月6日）したためです。

1学年10学級を超える市立中学と、少人数学級・1学年2～3学級程度の私立中学の隣接にどんな教育的効果があるのでしょうか。私立学校では、豊かな資金力を使い、制服や学力、部活をブランド化でき、駅と学校を結び送迎バスも導入するでしょう。

さらに、私立学校教育法25条では、「学校法人は、必要な施設及び設備、資金、財産を有する」ことが原則とされており、法を踏まえた対応も棚上げです。

教育関係者や保護者がいまこそ集い、十分な検証が必要ではありませんか。

※東洋学園大学跡地の敷地区割りや財政フレームなどは「日本共産党流山市議団」でネット検索してください。